



# 図書だより

第6号  
23・3・6・月

## 年度末の貸出について

新学年が迫っています。勉強や部活に気合を入れながら、ここで少し、来年度の自分のために読書の時間を取ってみてはいかがでしょうか。まだ、閲覧、貸し出しOKです。が、年度末ですので、小牧高校図書館で借りている本は

**3月 10日（水）までに  
返却をお願いします。**

## 2022牧高貸出ランキング発表

今、図書館では、カウンター前に「2022牧高貸出ランキング」が発表・展示されています。ちまたで人気の5分で読める短編集も、もちろん人気はありましたが、牧高生に最も好まれたのは、長編！その世界にどっぷりつかって、がっつり感動できる夕見夏衛作品でした。あなたの読んだ本は、ランキングに入っていますか？貸出数上位の本を紹介するので、まだ、読んでいない本、興味のわく本があれば、手に取っててくださいね。

### 第1位 『真夜中の底で君を待つ』 (夕見 夏衛)



家族や友達というより、喫茶店のアルバイトが好きな？17歳の更紗。アイスコーヒーだけで閉店まで粘る常連客の「黒縁さん」。おしゃべりが苦手な二人が、店以外で偶然出会ったのは夜の公園だった。お互いの連絡先も知らないまま始まった特別な時間は、胸に秘めた過去の痛みを解きほぐしていく。二人の事情はネタバレになるから言えないけれど、『言葉』の力を思い知る。

「自分の思いを正確に言語化できるように、本を読んだり、映画を見たり、人と話して、たくさんの言葉を浴びて、沢山の言葉を覚える必要がある。」 by 作中の仁科さん

### 第2位 『余命10年』 (小坂 流加)



死ぬ前って、もっとワガママできると思ってた。二十歳の茉莉は、数万人に一人という不治の病にかかり、余命が10年であることを知る。周りが追いつめられるから、笑顔でいなくては…とか、何かをはじめても志半ばで諦めなくてはならない…とか、未来に対する諦めから死への恐怖は薄れ、淡々とした日々を過ごしていく。恋はしないと心に決める茉莉だったが……。衝撃の結末、涙よりせつない実話にもとづくラブストーリー。作者は本書の刊行を待つことなく、亡くなりました。

アマプラでやっている映画と比べてみるのもおもしろいよ。いや、悲しいよ。  
「死ぬ準備はできた。だからあとは精一杯生きてみるよ」 by 主人公の茉莉

以下次の作品が続きます！

### 第3位 『君と過ごした透明な時間』

『あの花が咲く丘で、  
君とまた出会えたら』

『か「く」「し」「ご」と「』  
『恋に至る病』

### 第4位 『推し燃ゆ』

『三千円の使いかた』  
『夜が明けたら、  
いちばんに君に会いにいく』  
『元彼の遺言状』



## 2022年度、最後はプレゼン大会！

1月末に、図書委員による本のプレゼン大会がありました。優勝したのは1年6組松浦双葉さん、準優勝は2年6組向井涼音さんでした。

『辻、星のごとく』 (凧良ゆう)  
17歳で、親を支える糧と暁海。この二人だけが分かり合えたのに、すれ違う。本当に切ない。でも「自分の足で立てること。それは自分を守ること」暁海は精一杯生きていく。



☆最後に、本年度も図書館活動に協力してくださった皆さん、特に中心となって盛り上げてくれた図書委員さんたち、本当にありがとうございました。